

応募いただいたみなさん
報道 御中

全国学生動画アワード 2018

審査結果発表

2019年3月25日 審査委員会

多くの応募をいただき、誠にありがとうございました。昨年度に比べ劇的な進歩がみられる作品が多く、審査員一同、圧倒されました。

厳正な審査の結果、以下の作品を顕彰することに決定いたしました。受賞されたみなさん、誠におめでとうございます。また惜しくも受賞に至らなかった皆さんの作品も、ほぼすべてが高水準の作品でした。

「これからは学生、生徒の動画が社会を動かしていく原動力になる」という、確実な予感がしています。

なお、動画紹介において下記の項目表記は以下を示しています。

- (1) 動画タイトル
 - (2) URL
 - (3) 所属学校、部門名称
 - (4) ハンドルネーム
 - (5) 氏名(非公開希望者は空欄)
- 【制作者作品説明】
【審査員コメント】

これらの作品は3月25日時点で以下のサイトで視聴することが可能です。

大学教育テレビジョン <http://setv.shizuoka.ac.jp/>

また、4月初旬に下記サイトで、応募いただいた動画のうち公開可能なすべてを下記にて公開予定です。

静岡大学テレビジョン <http://sutv.shizuoka.ac.jp/>

静岡県立テレビ <http://ustv.u-shizuoka-ken.ac.jp/>

なお、審査員の氏名、所属は最終ページに記載してあります。

1. グランプリ

- (1) 浜松学生連鰻陀羅『かける』復活
- (2) <https://youtu.be/YS4Trgshb8E>
- (3) 静岡大学
- (4) なし
- (5) 間瀬雄太

注記: この作品は「地域連携部門」応募です。



【制作者作品説明】

浜松の学生を中心とするよさこいチーム、浜松学生連鰻陀羅の2016年度演舞曲『かける』が2018年静大祭で再演したことを記念して制作しました。演舞の題材は、凧揚げ合戦や練り歩きで有名な浜松まつりです。この演舞を、このチームを、よさこいを、多くの人に知っていただくために、わかりやすく楽しめるような動画にしました。動画を見て、生で見たい！とか、踊ってみたい！と思っただけだと幸いです。

【審査員コメント】

- 躍動感、楽しさ、悔しさが上手に表現されています。またスーパーインポーズもうまく使用されており記録としての価値も上がっています。
- やはりエネルギーを感じる
- 映像のボリューム感満載。地域の一体感は素晴らしい。学生の活力が地域に浸透している感じ。
- 学生さんが地域と一体になって頑張っている姿がうまく表現できていたのではないかと思います。
- オープニングから凝っています。映像もしっかり撮影し、編集、ストーリー性も good です。
- 完成度が高い！
- 年月をかけて撮影したたくさんのパフォーマンスをつないだ迫力と熱量にあふれる映像と、みんなで大賞をめざし、ひとつになったストーリー構成がとても良かったです。
- 活動の内容が伝わってきます。冒頭にどのような活動を行っているグループなのかの説明があれば更に良く仕上がると思います
- 活動の様子がよくわかり、迫力のある映像です。タイトルの意味がよく分からなかったです
- 連帯感が伝わってきます
- 疾走感あふれる映像に圧倒されました。今までの曼荼羅の映像で一番いいかもしれせん。
- 迫力があります。見入ってしまいました。
- 踊りの迫力が伝わってきました。編集も素晴らしいです。
- 鰻陀羅の迫力が伝わってきます！
- 各地で披露しているカッコいい演舞の様子が伝わってきました。

2. 静岡新聞 SBS 賞

- (1) 放課後清掃男
- (2) <https://youtu.be/IOaKjcHuNJM>
- (3) 愛媛県立三島高等学校
- (4) hiroyoshi_art
- (5) 鈴木宏佳

注記:この作品は「フリー部門」応募です。



【制作者作品説明】

学校の清掃の時間をどこか面倒に感じ、惰性で行っているという人は多いと思います。それを面白くさせるにはどうしたらいいのかという気持ちが、ストップモーションで現実離れた動きを撮りたいという私の思いとシンクロし、この作品を作るきっかけとなりました。

内容はタイトルにある通り、放課後に現れる謎の清掃男の物語となっています。一言でこの物語を表すとすると、「彼の恐るべき能力が、あっという間に掃除を終わらせてしまう。」といったところでしょう。

アピールポイントは、カメラの視点の動かし方です。見ていて飽きることのないように、カメラの位置を移動させたり左右に大きく振ることを意識して行いました。

【審査員コメント】

- 高度な映像編集技術で学校での活動をうまく表現しています。力作ですね。
- 「こんなことができました」の長編版を見ているようで面白かったです！
- 表現が凝っていて、うまく現象を切り取って訴求力を高めているのが高評価でした。
- 非常に凝った映像撮影と表現です。発想を動画にして実現させたところが素晴らしいと思います。
- 力作ですね。あっという間の掃除のはずですが最中に外が真っ暗になってしまっていて（笑）相当撮影に時間をかけたことと思います。教室の掃除という地味なテーマできちんとエンターテインメント性のある映像になっていて素晴らしいと思います。
- 凝った編集で作られた作品ではなく、アイデアを使ったストーリー性の高い作品と思いました
- あり得ない現実がいいですね
- 掃除の風景
- 登場から面白い、清掃男、素晴らしいです。
- 手作り感が感じられる楽しい動画でした。
- 清掃がたのしくなりそうです。
- とても面白いです！撮影が大変だったのではと思います。
- パラパラ漫画のようで面白かったです。総撮影枚数がどれくらいなのか気になりました。

3. 部門賞

(1) 学校紹介部門:

1) 最優秀賞

- (1) 静岡大学テレビジョンで活躍するリポーターを紹介！
- (2) <https://youtu.be/-oRYQdz1Yjs>
- (3) 静岡大学
- (4) なし
- (5) 鈴木啓太



【制作者作品説明】

静岡大学テレビジョンで活躍しているメンバーがこの春に卒業します。記念としていままで取材した様子を動画にしました。成長ぶりもご覧ください。

【審査員コメント】

- 素晴らしい、大学を動画で発信する場合、学生によるナビゲーションはもっとも推奨できる方法です。卒業するみなさん、お疲れ様でした。制作した動画は大学の歴史としていつまでも輝きます。
- 静大 TV スタッフのクオリティの高さが良くわかりました。うらやましいです。
- リポーターやスタッフのレベルの高さが伝わってきており、学校 PR として優れていると思います。
- 静大 TV のリポーターの活躍がよくわかる動画です。リポーターには良い思い出に、学生には自分もやってみたいと思わせる動画です。
- たくさんの学生がリポーターとして参加する静大 TV っていういいと思わせる映像になっていると思います。もう少しアップテンポな音楽で楽しい感じに上げると尚良くなると思います。
- たくさんの学生がリポーターとして参加する静大 TV っていういいと思わせる映像になっていると思います。もう少しアップテンポな音楽で楽しい感じに上げると尚良くなると思います。
- 静大TVの様子がよくわかりました
- リポーターの方々のことがよくわかりました
- とてもさわやかな作品でした。
- 静大 TV のリポーターみんな素敵です。
- 静大 TV の学生リポーターの皆さんの様子が上手にまとめられていたと思います。

2) 優秀賞:

- (1) May the boat be with you
- (2) <https://youtu.be/1ogoqMI0Gak>
- (3) 吉田高校ボート部
- (4) Kiichi Komai
- (5) 駒井喜一



【制作者作品説明】

この映像は、新入生に向けて SNS 上で部のことを知ってもらうために制作した PV です。余計な勧誘の言葉や説明文は使わず、映像と音楽と短い言葉のみでスピード感を特に意識して編集しました。

部の活動を、室内でのトレーニングだけでなく、実際に湖に行き、さらに同じボートに乗って撮影し、ボートの一番大きい魅力である水上の体験が伝えられるようにしました。

【審査員コメント】

- 映像、セリフ、音楽共に大変レベルの高い動画ですね。入部希望者が増加すると思います。
- かっこよい
- ボート部のかっこいい映像だと感じました。カメラの切り替え方と音楽とのマッチングもとても良いと思いました。でも学校紹介ではないのが残念です。
- かっこいいビデオ、ミュージックもかっこいいです。ただし、学校 PR の色があまり見えませんでした。
- 映像を様々な角度から撮影し、テンポよく編集することでボートの水上での疾走感も伝わってきます。BGM のレベルに注意するとよいと思います。
- 音も編集もカッコイイです。ボート部に入りたくなると思います。
- ボート部というスポーツの魅力、雰囲気が伝わる非常に良い作品
- きれいな映像で、波の音や風が感じられるような動画です
- ボート部の活動内容がよくわかりました
- かっこいい PV ですね
- 迫力がありません
- ボート部の魅力が伝わりました。
- ボートに青春を掛けている様子が伝わってきて、かっこいいですね。
- かっこいい映像でした

3) 優秀賞:

- (1) 感謝の気持ちを伝える相手
- (2) <https://youtu.be/i5SLBJfC5C4>
- (3) 中京大学
- (4) なし
- (5) 南 光勇士



【制作者解説】

今回、中京大学で活躍されているフィギュアスケーター本郷理華選手取材しました。トップアスリートを輩出している中京大学。本郷理華選手も現役で活躍されているトップアスリートです。そんな彼女の「感謝の気持ちを伝えたい相手」がテーマとなっております。この動画を見た人も「感謝の気持ちを誰に伝えるか」を考えて欲しいという思いがこもっております。

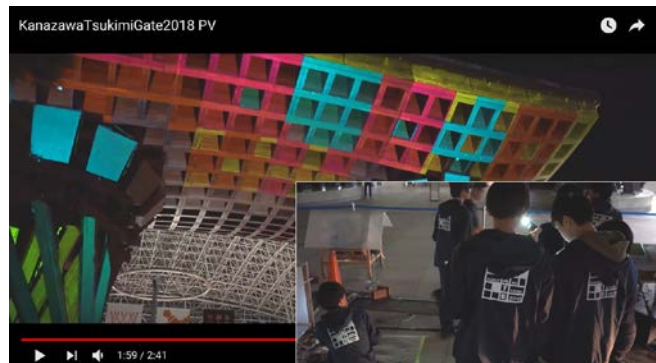
【審査員コメント】

- 大学で何をするのか、何を目的にするのかなどいろいろな思いがわいてくる動画ですね。本郷さんのスケートが素晴らしい！
- みいってしまいますね
- フィギュアスケートのコンテンツが良く、挑戦するというキーワードによくあっていました
- 映像、音声が綺麗です。またフィギュアスケーターの生き様のアピールとしてはいいと思います。ただ、これだけだと普段の中京大学のニュースで取り上げられるものと大差なく、大学としてどう関わったのかなど今回の動画アワードならではの視点が欲しかったです。
- 本郷選手の思いが伝わる PV 風作品。映像の取り方もインタビューの雰囲気合っています。インタビューの内容すべてを字幕で縦表記で入れる工夫と文字の大きさ、書体もインタビューに待ちしている。
- 学校制作 V のよう
- 冒頭の 15 秒が印象的。本郷選手のパーソナルな思いと大学の理念を重ね合わせ、情緒的な世界観で描いた良質な作品だと思います。
- 全体的に非常によくできているが、冒頭環境音が多少入っている点が気になる。内容に合わせて無音または適切な BGM の追加があれば更に良い
- 素晴らしい！ 大学の魅力が良く伝わってきます。
- フィギュアスケートの様子がよくわかりました
- 本郷選手を応援したくなりました。
- ご本人の許可は取られていれば、よいと思います
- トップアスリートは絵になります。
- ジャンプなどの動きも綺麗にとらえられていますね。
- ドキュメンタリーのような動画ですね。ご本人の喋ってる映像もどこかにいれてみてはいかがでしょうか。

(2) 地域連携部門

1) 最優秀賞

- (1) Kanazawa Tsukimi Gate 2018
- (2) <https://youtu.be/kCbF57J6tIg>
- (3) 金沢工業大学
- (4) えーちゃん
- (5) 山谷 祐貴



【制作者作品説明】

私たち金沢工業大学メディア情報学科、出原研究室に所属している学生です。出原研究室は金沢市と連携し、夜の賑わい創出事業を行いました。その取り組みの一つとして、金沢駅鼓門プロジェクションマッピングを開催しました。映像の製作、運営などを私たち学生が主体となって行い、イベントを無事成功させました。その様子を撮影し、PVのようにまとめたものです。このような取り組みを行っていることを、多くの人に知ってもらいたく制作しました。

【審査員コメント】

- 素晴らしいプロジェクトですね。映像が非常に美しく、是非現地で見たくなりました。記録的な要素も重要と思いますので的確なナレーション、スーパーインポーズなどを付加していくようにすればさらに良いものになっていくと思います。
- 意図的に映像とっている感じが素晴らしい。音楽とのマッチングもいい。ナレーションが無くてもよい印象。ただ地域連携の観点がアートで貢献？なのかな？
- ナレーションがなくても伝わってくるものがあり、良かったです。が、地域連携との関係が明確ではなく、アピール度は低くなりました。
- プロジェクションマッピングの準備風景から実施までをアップの映像とアップテンポの音で一気に見せています。プロジェクションマッピングのきれいな映像と観客の表情がもう少し入るとより感動的に仕上がると思います。
- 実際のマッピングをもう少し見たいと思いましたが、鼓門の形状を活かした素敵なデザインだなと思います。制作の熱量がもっと伝わってくると良いと思いました。
- オブジェクトのプロジェクトがどのように進み完成したかが伝わる内容になっていますが、そもそも何のイベントなのかが説明されていない点が気になりました
- 建物の迫力が伝わり、イベントの雰囲気伝わる映像でした。内容の説明があるとより分かり易くなると思います。
- 映像が美しい。
- 美しい映像でPV風に仕上がりが素晴らしいと思います。
- かっこいい映像でした。CMのようです。説明も欲しかったです。
- 音楽と映像が素敵でした。
- 映像も綺麗で、BGMとあっていると思います。プロジェクションマッピングを作り上げた人たちの思いのようなものがもっと伝わってきてほしいと思いました。
- あえて文字やナレーションを入れてなくても、プロジェクトの様子がわかる作品となっていたと思います。

2) 優秀賞:

- (1) 浜松市防災学習センター オープニングイベントに潜入！防災を楽しく学んでみよう！
- (2) <https://youtu.be/dQ-TTSJsN8w>
- (3) 静岡大学
- (4) なし
- (5) 渡邊拓弥



【制作者作品説明】

防災について、楽しく学べる施設が完成しました！その様子を分かりやすくレポートしました。この動画を観て、少しでも皆さんのためになってもらえたら嬉しいです。

【審査員コメント】

- 防災学習センターの概要、内容、楽しさが良く伝わってきます。リポーターは大変上手で感心しました。
- やっぱりマイク取材いいよね。地域の取材、防災、とてもテーマが良いと思う。バランスがとても良い。
- 地域連携として大事な部分を切り取ってきていると思います。映像と音声の技術も高いです。
- オープニングから視聴者を引き付ける工夫があり、編集も様々なエフェクトを使ってチャレンジしています。いろいろなコーナーがあることもわかりましたが、もう少しポイントを絞って体験動画にすると、特長がもっとクローズアップされると思います。
- 見ていて安心できる造り。
- 要点をまとめてレポートができていたと思います。
- 防災について、静岡が防災に力を入れているということが伝わる内容に仕上がっていると思います。一部カメラワークを見直すことで更に良く仕上がると思います
- 防災センターの展示内容や目的などがよくわかりました。ぜひ行ってみたいと思います。
- 構成がおもしろい。
- 施設やイベントの様子がよくわかる映像でした。
- リポーターの方の声質が聞き取りやすくてよいと思いました。
- 大切な情報が分かりやすく伝わってきました。
- タイムリーですね。実践的に防災について学ぶことが出来ることが伝わってきました。
- 見学の様子をわかりやすくまとめられていると思いました。

2) 優秀賞:

- (1) 「静岡 in me」
- (2) <https://www.youtube.com/watch?v=kWQUtwaJY2g>
- (3) 静岡大学
- (4) なし
- (5) ドー・ハー・フォン



【制作者作品説明】

「静岡 in me」は静岡市に住んでいるベトナム人留学生の視点から作られたビデオである。静岡にある街から、食文化、人々に至るまで、私たちが愛する静岡のすべてを伝えたい。また、心からの感謝として、私たちはお世話になっている静岡の人たちへこのビデオを送りたい！

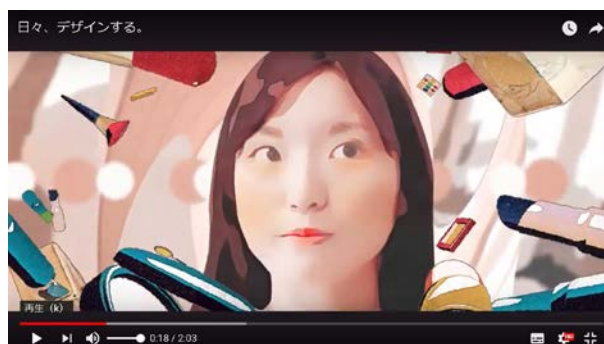
【審査員コメント】

- 静岡愛にあふれた作品ですね、ベトナムからの留学生の目から見た地域が非常に新鮮です。
- 富士山。いいよね～。特定の人に焦点あてて人臭いところを責めている。人と地域をどうとらえるか・・・
- 優しい音楽が幸せな日常と調和していて良かったです。しかしながら、アピール度という点では、日常生活を切り取ったという感じで地域連携という感じがわかりませんでした。
- 留学生からみた静岡の魅力と人と人とのふれあひも伝わってくるハートウォーミングな動画作品。BGMの雰囲気もいい。
- もっと良くなる可能性のある題材だと思う。
- 留学生が静岡のことをこんなに愛してくれて、地元の人がとても嬉しく思う映像だと思います。
- 静岡、人、食べ物といった魅力とストーリー仕立てということでより一層の魅力が伝わる内容に仕上がっています
- 静岡の生活の雰囲気が伝わる動画でした。ナレーション及び字幕による説明が追加されるともっと分かり易くなると思います
- 留学生のがんばりが伝わってきます
- ベトナム人留学生からはこんなに静岡は温かく映っているのかと感動しました。
- もう少し説明があつたら、なお良いと思いました。
- 静岡に対する思いが伝わってきました。
- 映像から感謝の気持ちが伝わってきます。
- 自分の思う静岡のいいところが凝縮されていたように思いました。

(3) フリー部門

1) 最優秀賞

- (1) 日々、デザインする。
- (2) https://youtu.be/Ld-tH2ar_vE
- (3) 東京工科大学デザイン学部
- (4) なし
- (5) 稲田雄太



【制作者作品説明】

デザイン系大学の卒業制作で作りました。「私たちが普段していることも、『デザイン』だ。」という自分なりの視点・主張を、メッセージとして発信した映像です。『デザイン』と聞くと、多くの方はドローイングやお洒落なビジュアルなどを思い浮かべるとと思います。しかし、『デザイン』はそういった名詞的な意味合いのほかに、動詞としての側面を持っています。それを捉えてもらうために制作しました。実写とCGを使い、デザインが日常に入り込んでいることを、理屈だけでなく感覚でも伝わるような表現を取り入れました。色鮮やかだったり魔法のような演出は、デザインすることの印象を、楽しくてエネルギッシュなものにします。

【審査員コメント】

- デザインの面白さ、重要性が良く表現された優れた作品。学校紹介としても優秀。
- 卒業制作を投稿されているということもありクオリティが高いですね。とても視点が整理されていて、共感を得やすい内容だと思います。メリハリがある展開ですね。
- デザインとは何かを自分なりの表現方法で凝縮して表現している。ユーザの定義を広く捉えて、ターゲットが変わるとやることも変わるというコンセプトが具体的に端的に表現されていて良いと思いました。
- デザインというテーマを、様々な切り口で表現しています。見せ方も工夫していて訴求力もあります。
- 「理論」を映像と音とタイポグラフィで楽しくデザインした動画に仕上がっていると思います。
- デザインというテーマに基づいたストーリー、ストーリーを表現する技術力、どの点においても無駄がなく、すべてががっちり組み合わせられた作品と思いました
- デザインの意味がとてもよくわかりました
- 構成が面白い。
- わかりやすく、かつ映像もきれいで面白いです。万人向け。
- テンポのよい動画でした。もう少しアピールが欲しかったです。
- デザインとは、の答えをもらいました。
- デザインを身近にとらえることが出来、非常に面白いです。何度も「なるほど」と思いました。
- 普段の業務においても関係した点があり、考えさせられる内容でした。

2) 優秀賞

- (1) 夜の向こう
- (2) <https://youtu.be/ZMXiPbJD6To>
- (3) 京都精華大学
- (4) なし
- (5) 辻 知実



【制作者解説】

本作品は学生限定のコンペにちなんで学生がぶつかりやすい?他人の目?や?自己肯定感?という悩みをテーマとし、前半は主人公の目線から、後半は対峙する二人の様子をアニメーションにより表現したものである。同じ一人ぼっちでありながら周囲の目を気にし、うまく馴染めずにいる主人公の少女と、いつも堂々としているもう一人の少女。二つのキャラクターの同一であり対照的な関係や、物語後半の夜明けのシーンにおいてそんな主人公が胸に募らせていた感情を精一杯もう一人の少女にぶつけ、それに同調するような周囲の情景や朝日の描写にも着目したい。

【審査員コメント】

- 映像、音声、CG、ストーリーすべてが高水準で素晴らしい。
- とてもきれいな映像で、アニメーションのクオリティもすばらしいと思いました。
- 映像、音響とも綺麗な印象でした。ただ、葛藤を抱えた彼女のそこに至るまでの心情の変化などもう少し前提の描画があるといいかなと思いました。
- アニメのショート作品として完成しています。映像はしっかりと作られています。
- 若者ならではの心の葛藤をアニメで表現することで陳腐にならずストレートに描き切れている作品だと思います。
- アニメーションだけでなく、アテレコ、SE もきちんとしており、ストーリー性の高い作品と思いました。
- 素晴らしいです。声も素敵でした。
- アニメーションがプロっぽい。
- アニメーションも声優の演技も、プロ顔負けで素晴らしいと思います。
- ストーリーが上手に作成されていると思いました。
- 短い物語だけど思いが伝わった。
- 新海誠風な動画ですね。自分に無いものばかりに目が行ってしまう女の子の心情が良く表現されていると思います。
- クオリティの高いアニメーションだと思います。描画もとてもきれいでした。

3) 優秀賞:

- (1) 心理的虐待の恐怖
- (2) <https://youtu.be/01P3G4NLZEE>
- (3) 東放学園映画専門学校
- (4) なし
- (5) 石田迪明



【制作者作品説明】

監督の石田の実体験をもとに面前 DV の被害にあっている子どもの気持ちを表現しました。直接的な虐待が世間ではインパクトもあり注目されやすいですが、その陰で多くの辛い思いをしている子どもは世間で騒がれている残酷な問題と自分を比較し言い出せずに抱え込んでしまう、身近に潜んでいる問題に目を向けてほしいという願いを込めました。設定としては、家に帰ればアルコール中毒の父親が毎晩怒鳴り散らし、母親は DV を受けている、家では自分を押し殺している分、学校では必要以上におどけて明るく振る舞うため、周りに気づかれることもない。そんな自身の過去の辛かった記憶を繋ぎ合わせたような作品になっています。

【審査員コメント】

- 難しいテーマを良く表現しています。重要な作品ですね。
- 面前 DV というテーマに対してしっかりとした映像がつくられている気がしました。
- インパクトがあり、演出が新しい感じがしました。
- 最近注目を集めている虐待を取り上げた作品でテーマ設定もよいと思いました。面前虐待を丁寧に映像で描いています。エビデンスを入れることによって、単に情緒的に流されず、しっかりメッセージを伝える作品になっています。
- とても考えさせられる作品でした。メッセージにリアリティがあり、非常に心に刺さります。面前 DV という見過ごされがちな問題に、ハッと気づかせる力のある作品だと思います。
- 社会問題に正面から取り組む姿勢に共感が持てました。
- 内容がよい。
- 映像、音楽、構成も素晴らしいですが、何より内容が胸に迫る作品でした。
- 考えさせられる動画でした。
- 大きな問題です。切なくなりました。
- 虐待への問題提起がしっかりとされていて、心に訴えてくるものがあります。
- 非常に考えさせられる内容だと思います。

(3) 仮想ユーチューバー部門

1) 最優秀賞

- (1) i カレタ - 『最終巻』MV (Virtual band)
- (2) <https://youtu.be/bh3d3H8AtJU>
- (3) 日本女子大学附属高等学校
- (4) 鯖井テトラポット
- (5) 藤田 麻里



【制作者作品説明】

バーチャルバンド「i カレタ」のミュージックビデオになります。制作意図と致しましては、バンドとして、2D だからこそできる演出、バーチャルさを生かした演出が出来るバーチャルバンドを作りたい！というキッカケがありました。

今の所一作のみしか発表していませんが、メンバー及び作中の謎をこれからどんどん楽曲発表により明らかにしていくメディアミックス展開を予定しています。MV やキャラクターなどの謎の多さにも注目していただけると嬉しいです。

【審査員コメント】

- 映像、音ともに素晴らしい。仮想ユーチューバーとして説明などが入るとさらにベターですね。
- うまいです。
- とにかく映像の作成スキルを感じさせる。バンドというチームを対象にしているのも素晴らしい。
- 独特な世界観が表現されていて良いと思いました。
- 曲も映像も素晴らしい。バーチャルだからこそ出来る映像、編集だと思う。
- キャラクターも魅力的ですし、楽曲も良いと思いました。
- 弦を押さえる動作など非常に細かいところまで調整している作品と思いました。
- 面白いミュージックビデオでした。
- 映像がプロっぽい。
- 映像も音楽もオリジナリティのある作品で素晴らしいです。
- 映像も音楽も綺麗でした。
- 音楽と映像がマッチしていました。
- 曲も映像も素敵ですね。
- 面白いコンセプトだと思いました。動画内に歌詞が全て入っているとより良いと思いました。

2) 優秀賞:

- (1) バーチャル YouTuber maomao の最初の挨拶
- (2) <https://www.youtube.com/watch?v=4IIrcQdNbaM>
- (3) 京都大学
- (4) なし
- (5) 村井達



【制作者作品説明】

京都大学の映画制作サークル「雪だるまプロ」に所属して映画製作に打ち込んできた身としては、ネット動画という媒体に不信感を覚えるときがあります。「いつでも」「何度でも」観られる、そんな映像が本当にあり得るもののでしょうか。いつもそうとは限らないはず…。疑念を抱きながらも、何度でも観られるというネット動画の長所を生かした映像を目指しました。何度も繰り返してみるうちに事実が明らかになるギミックに気づきましたか？ 繰り返し観られるものと観られないものとの間を探るうちに、仮想 YouTuber ははじめて他人の意思でなく自分で語りだすと思うのです。それとも、この動画を繰り返し観る人なんていないでしょうか？

【審査員コメント】

- Vtuber として正統的な動画で、感心しました。かなり進化してきた様子が良く分かります。次はスライド、動画などを駆使したマルチメディアの情報発信手段としての Vtuber にも挑戦してみてください。
- おもしろいコンセプト。
- 上手く、映像の切り替えを組み合わせるとぐさも細かかった。最後はやられた！感じがあった。
- Virtual Youtuber の裏側が見えて、映像も工夫があって良い。バージョン管理もリアルな感じでした。
- 実写からバーチャルへの乗り移りのスタートとエンディングのパートに工夫が見られました。
- キャラクターはいいと思うのですが、テーマとオチにもうひとひねり欲しい気がしました。
- メタフィクション的な展開がシュールな作品と思いました。
- 大変分かり易くて、動作やトークも自然でした。
- まさしく仮想 Youtuber。
- 作画、動きなど高度な技術です。
- 文字も入れて分かりやすく、面白い作品と思います。音楽もあつたらなお良いと思いました。
- キャラクターの動きが可愛く声もマッチしていました。これぞ Vtuber という感じでした。
- 健康がテーマでわかりやすいですね。文字が少し早いので、目で追うのが大変でした。
- 動きが自然に感じました。もう少し字幕が付いているとよりよいと思いました。

3) 優秀賞:

- (1) 【Vtuber】バーチャル×リアル!? 愛知県半田市で大散策!!【動画アワード】
- (2) <https://youtu.be/mGMgZIRVeqk>
- (3) 非公開
- (4) エフェクト I 世
- (5) 非公開



【制作者作品説明】

現実と仮想の境界があいまいになってきているバーチャル youtuber の界隈で、これまでの定例や既存の体系を 180° 回転させるため、今回は初の試みとして、仮想世界からバーチャル youtuber が現実世界へ飛び出し、「バーチャルリアルライフヒーロー(ゴミ拾い活動)」をしながら地域に密着し、愛知県半田市をなるべく手短かつわかりやすく紹介。半田市の歴史を中心に、江戸から発展した酢●酒造りに関わる出来事●建物をまとめた。

バーチャル youtuber がリアルライフヒーローを行い、動画を公開するのはこれが世界初となる。より知多半島の魅力ついて認知してもらうべく、その活動の第一歩として動画を作成した。

【審査員コメント】

- 半田市の紹介動画として非常に有効だと評価します。動画内での地図使用など情報発信手段として Vtuber をうまく活用していますね。
- 出だしが素敵。地元をちゃんと取材している点もいい。歴史もちゃんと調べて、制作時間が見えるのもいいよね。
- 映像と地図と Virtual Youtuber を組み合わせて手が込んでいる。
- 実写の動画とバーチャルの融合がこってりストーリー性もありますね。音声聞きやすくなるのもっと評価が上がると思います。
- ゴミ拾い&名所めぐりというコンセプトが面白く、会話のかけあいもテンポよく今っぽくて良かったです。キャラもきちんと確立していて全体的にとっても楽しめました。
- 地域を面白おかしく紹介されており楽しく視聴させていただきました。
- 実写とアニメの組み合わせが効果的でした。キャラクターの声聞きにくかったです。
- 機械音声に違和感がある。
- 動画と地図表記、Vチューバーの挿入など、映像に多様な工夫がみられました。
- 凝った作品になっていると思います。
- バーチャル、映像、文字が駆使されていてよかった。
- 沢山の名所が出てきて面白いです。最初、パソコンの画面が光ってしまっていたのが残念。
- 旅行番組みたいに上手にまとめられていて、面白かったです。

4. 審査員特別賞

上記賞に含まれませんが、審査員が特別に顕彰したい作品を「審査員特別賞」としました。番号は順位ではありません。全て同列評価です。

【1】

- (1) 色とりどりの花々とイルミネーションを満喫
#しずてれ旅行記@浜松フラワーパーク
- (2) <https://youtu.be/MAxbshMhyIM>
- (3) 静岡大学
- (4) なし
- (5) 鈴木啓太



【制作者作品説明】

今回は浜松フラワーパークに行ってきました。
大きなオブジェにバラ園、そしてクリスマスツリー。
夜にはイルミネーションも。

【選定理由】フラワーパークの昼夜の状況が良く表現されています。素晴らしい映像。ナレーションも適切で多くの人が行きたくなってしまう内容のため。

【2】

- (1) 転校生(加藤学園暁秀高等学校 PR 映像)
- (2) <https://youtu.be/3xafrQdypOA>
- (3) 加藤学園暁秀高等学校 美術部 映像班
- (4) なし
- (5) 植田尚宏



【制作者作品説明】

日頃から私のお世話になっている加藤学園暁秀高等学校へ、私ができる恩返しとして、本校への入学を希望する方々に向け、本校とはどのような学校なのかを分かりやすく伝えようと、この学校紹介 PR 映像を製作しました。新天地でうまくやって行けるだろうか、と大きな不安を抱えながら本校へ訪れる転校生。そんな転校生を、陽気で優しい生徒が引っ張って学校中を案内します。そんな本校のあたたかく、明るい雰囲気が満天に詰まった映像です。学校紹介映像ではあるものの、ただ情報を伝えるためでなく、この映像自体に一つの作品として魅力を持たせることに重きを置いて製作しました。よろしくお願いします。

【選定理由】

2人の審査員から推薦を受けました。

審査員1:よく練られたストーリーと演技、印象的な映像と音楽が融合した学校紹介動画となっている。

審査員2:ナレーションや字幕による説明がないのが残念ですが、学生生活の課題をとらえた学校紹介になっていると思います。

【3】

- (1) tiny
- (2) <https://youtu.be/57KA5YemTz4>
- (3) 長岡造形大学
- (4) なし
- (5) 佐藤史織



【制作者作品説明】

透明水彩によるアニメーション作品です。透明水彩の魅力を伝えるために、じわっと滲む様子や、乾く前の水の粒等、実写との合成もしています。

【選定理由】

水彩画によるアニメーション動画。音楽とともに印象的な作品となっている。

【4】

- (1) Kendama Club of Tachikawa TACHIHI JAM
- (2) <https://youtu.be/zJjApQctE38>
- (3) 都立立川高校
- (4) なし
- (5) 永田一樹



【制作者作品説明】

私たちはおそらく日本で唯一の、けん玉同好会(Kendama Club)です。私たちは、世の中にある”けん玉”のイメージを払拭し、もっと面白くて、かっこいいものだ、ということを広めることを目標に、日々活動しています。今回提出させていただいたのは、立飛ビーチという、海のないビーチで、JAM と呼ばれる練習会をした時の動画です。全員が楽しんでいるのが伝わり、またけん玉に対するイメージを少しでも変得られたらいい、と思い作りました。最後の技のカメラワーク等、こだわった点はいくつかありますが、何より技が決まった後の一人一人の笑顔が、この動画最大の魅力だと思います。

【選定理由】

構成もストーリーもシンプルだが、学生たちの楽しさが伝わってくる。

【5】

- (1) 花園高校 施設紹介
- (2) <https://youtu.be/oEsegx2sl-I>
- (3) 京都花園高等学校
- (4) なし
- (5) 京都花園高等学校 1年1組



【制作者作品説明】

私たちのクラスは、情報授業の集大成として今回の動画コンテストに応募させていただきました。クラスの代表4人と先生で動画の構成を決め、クラス16人全員がキャストとして出演しました。カット割りやシーン構成、撮影技法、場面の切り替えなど様々な工夫を凝らし、どうしたら私たちの学校よりよく紹介できるかを考え抜きました。短い期間の中ではありましたが、クラス全員で一生懸命頑張ったので、どうか最後までご覧ください。また花園高校ならではの施設が登場するので、そちらも注目しながらご覧いただければ嬉しいです。

【選定理由】

撮影アングルや編集・選曲のセンスが良く、制作者が動画をよく研究しているというか、動画世代のネイティブな感覚が伝わってくる作品でした。施設紹介がちゃんとプロモーションビデオになっていて、飽きさせないつなぎでとてもかっこよかったです。花園高校に行ってみたくくなりました。

【6】

- (1) こっちをみているユリカモメ
- (2) <https://youtu.be/OAMK-IEryPg>
- (3) 東京藝術大学
- (4) やまちさ
- (5) 山田 知沙



【制作者作品説明】

なし

【選定理由】

5人の審査員から推薦を受けました。

審査員1: イラストも音楽も可愛らしくて、作品としてのクオリティがとても高いと思いました。ユリカモメがこっちを見ているように見える、という点にフォーカスした歌詞も良く、教育番組などでも使える素敵な映像作品だと思います。

審査員2: ユニークな絵が魅力で、つい口ずさんでしまいそうなメロディも素敵な作品です

審査員3: 可愛らしく、シンプルでよいです。癒されました。

審査員4: NHK のみんなのうたで流れそうな曲だと思います。また、作詞作曲から動画まで作れるというのは才能にあふれていると思います。

審査員5: イラストやメロディがとても可愛く、審査中に癒されました。Eテレで流れていてもおかしくないと思います。

【7】

- (1) E-RUNNING
- (2) <https://youtu.be/Ni19UyHWO9A>
- (3) HAL 名古屋
- (4) なし
- (5) 早川一真



【制作者作品説明】

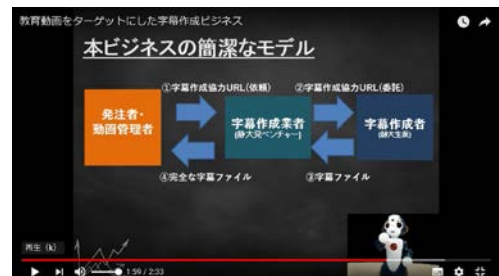
私たちの作品テーマは「時代を走る」です。時代の流れによって形態が変わっていった物をレースの中で描き、時代の流れを表現しました。年代に合わせて物を変化させたり、その年代に合った試練を表現したりしています。今回はバブル景気やリーマンショックなどを試練として設定しました。背景にもコアラなど人気やブームになったもの小ネタとして加えています。最後はゴールさせないことでこれからの未来も進化は止まらないというメッセージを込めました。この作品を通じて時代の流れを感じて貰えたら嬉しいです。

【選定理由】

一見すると何の変哲も共通点もないレースなのですが、レースの最後には…。ストーリーの構成に脱帽です。

【8】

- (1) 教育動画をターゲットにした字幕作成ビジネス
- (2) https://youtu.be/OeNh5Ak_xas
- (3) 静岡大学工学部
- (4) 伝書鳩
- (5) 吉田 昂洋



【制作者作品説明】

近年、大学等においてICT活用教育と呼ばれる動画を用いた教育が普及されました。動画の情報力向上のためにも字幕は必要な存在であり、本動画では、「YouTube上で管理されている教育動画をターゲットにした、静岡大学発の字幕作成ビジネス」の簡潔な紹介を行なっています。動画の話し手はロボットであり、人工音声を活用した動画は今後の主流の一つになっていくと考えます。仮想ユーチューバーのような動画が、先生方の授業や研究紹介等といった教育に利用される機会も増えるのではないのでしょうか。

【選定理由】

2人の審査員から推薦を受けました。

審査員1:プレゼンテーションとしてきちんとまとまった動画であること。教材としても利用できること。

審査員2:ロボットを仮想ナビゲーターにしており、新規性が高い。従来の概念を打ち破っている。今後の教育・研究動画に大きな影響を与えうる物であるため。

【9】

- (1) 静岡県西部魅力発見ツアー
- (2) <https://www.youtube.com/watch?v=obqTvQoOPiQ>
- (3) 静岡県立大学
- (4) なし
- (5) 柳 偉傑



【制作者作品説明】

静岡県西部地域観光をアピールする為

【選定理由】

地域紹介がわかりやすく、よい地域連携になっていると感じました。

【10】

- (1) 春って、不思議な季節だ。
- (2) https://youtu.be/_KrfEUwL7dA
- (3) 宮崎西高校
- (4) なし
- (5) 崎村宙央



【制作者作品説明】

高校の三年生の先輩方を送り出すために制作したアニメ作品です。

アニメとして、春という季節自体の空気感や雰囲気表現しようというのが全体のテーマです。表現方法としてアニメを選んだ理由としては、実写とは違い一から世界観を構成しなければならないために、自分の思い描く絵を追求できるのではないかと考えたためです。

技術的な事に関しては、背景に3DCGを使用したり、原画の枚数を減らすためにモーフィングを使用したりするなどの工夫をしています。また、アニメの絵の線の輪郭を背景の色とシンクロさせるという事によって、絵全体の馴染みを良くし、春の空気感を透明感あふれる演出で表現できたと思います。

【選定理由】

芸術的なストーリーで、ほとんどプロです。

【11】

- (1) かわいい動物たちがいっぱい！
動物とのふれあいも | #しずてれ旅行記@浜松市動物園
- (2) <https://youtu.be/jFjwVuAyOw4>
- (3) 静岡大学
- (4) なし
- (5) 鈴木啓太



【制作者作品説明】

今回は浜松市動物園に行ってきました。園内にはトラ、キリン、ゾウ、シロクマなど人気の動物たちがいっぱい。うさぎやカンガルーとのふれあい体験もできます。

【選定理由】

画角に工夫が見られ、通常の動画とは違ったインパクトを視聴者に与えます。BGM で見せるパート、ナレーションで感想を盛り込むパートとメリハリのある構成です。動物と触れ合うことができ、動物のかわいらしさと動物園の魅力が伝わる作品で、地域連携部門のテーマにも沿ったなかなかの力作と考えます。

【12】

- (1) “自転車を学ぶ” 東京サイクルデザイン専門学校
- (2) <https://youtu.be/YLKK9aVeWvU>
- (3) 東京サイクルデザイン専門学校
- (4) なし
- (5) TCD MOVIE



【制作者作品説明】

動画のテーマは「1mm」です。東京サイクルデザイン専門学校ではデザイン、フレームビルディング、メンテナンスと、設計から販売に関わる全てを学んでいます。春から自転車に専門的に触れてきて、私たちは1?に対するこだわりを知りました。自転車は、乗り手の体型や用途などを考慮して?単位で作られており、1mm のずれで、性能や美しさに大きな違いが生まれる乗り物です。みなさんの乗っている自転車も、その過程を歩んでいます。動画を見て、自転車に乗ったときに、ぜひ作り手の想いを感じてください

【選定理由】

2人の審査員から推薦を受けました。

審査員1: 学校の紹介として秀逸な作品だと思います。映像、構成、音楽全てバランス良く、ナレーションや説明がなくても学校の特色を上手に伝えていると思います。

審査員2: 自転車の説明門学校がどういうものかが映像と音響でかっこよく伝わってきました。

【13】

- (1) ほっとできる場所
- (2) <https://youtu.be/Ku60JjTBV6U>
- (3) 専修大学
- (4) なし
- (5) 藤田慧士



【制作者作品説明】

この動画は、こども食堂の会というボランティア団体が、どのような活動をしているのか、又スタッフさん達がどのような思いで活動しているのかを伝えるために制作しました。インタビュー形式で、スタッフさん達にお答えしていただくことによって、どんな活動をしているのかを伝えるのと同時に、こども食堂の会のスタッフさん達の人柄や食堂内の明るい雰囲気も伝わったうれしいです。この動画のアピールポイントは、こども達が楽しそうに遊んでいる姿やとても元気で明るいスタッフさん達の笑顔溢れるシーンが沢山あるところです。

【選定理由】

2人の審査員から推薦を受けました。

審査員1: 地域連携部門に入るとは思いますが、子ども食堂の活動を柔らかい映像と音楽で、わかりやすく伝えていきます。生産者と供給者のインタビューがあり、子供が映り込まないような配慮もされ、素晴らしい作品だと思います。

審査員2: 温かい動画でした。短い時間ですが内容が充実していたと思います。

【14】

- (1) 走るために必要なモノ
- (2) <https://youtu.be/KlxaJoB6D7w>
- (3) HAL 名古屋
- (4) なし
- (5) トムソーネの冒険隊



【制作者作品説明】

この作品は、走るモノとその者(ヒト)の出会いを描いた作品です。主人公のクツは、自分をはいてくれそうな人を探します。いつかきっと素敵な人と出会えると希望を持って…。

【選定理由】

スニーカー好きとしてはとてもグッときた作品でしたので、特別賞に推薦したいと思います。

【15】

- (1) FISH
- (2) <https://youtu.be/vLIEv-X8bAA>
- (3) 長野県須坂高等学校
- (4) なし
- (5) 藤澤美里



【制作者作品説明】

興味があったストップモーションで、海の中を舞台にした作品を作りたいと思い制作しました。特にこだわったことは、キャラクター作りです。形や質感は本物を意識してリアルさを出し、手作りの良さ・優しくてほのぼのとした感じを表現するために、全てのキャラクターの色付けに「和紙」使用しました。エンドロールもデジタルで簡単に制作することは出来ませんが、あえて一文字ずつ切り出してコマ撮りにしました。そこに魚や海藻を合成して、アナログとデジタルの技法を融合させました。一人での制作や糸で吊るしての撮影は想像以上に大変なことも多かったですが、最後まで楽しみながら作品を制作できたことが一番よかったと思います。

【選定理由】

ストップモーションが非常に凝っています。色使いも鮮やかで、3分間ですが見ごたえがありました。

【16】

- (1) 無線 AP ログを利用した施設利用効率分析システムの研究
- (2) <https://youtu.be/fqVrTAnWZOO>
- (3) 静岡大学大学院
- (4) なし
- (5) 池田清花



【制作者作品説明】

内容は修士研究のものですが、発表後に先生に当コンテストを勧められ、コンテスト用に再編集し情報基盤センターの動画制作サービスを活用して応募しました。動画を通じて私の研究や、所属するMOTの修学内容に興味を持っていただけると幸いです。

【選定理由】

ロボットを仮想ナビゲーターにしており、新規性が高い。従来の概念を打ち破っている。今後の教育・研究動画に大きな影響を与えうる物で有るため。

5. 審査員氏名と所属

下記の方々に厳正かつ公平なる審査を実施いただきました。

井上 春樹	静岡大学情報基盤センター	センター長	
浅野 みさき	アラモードメディア	代表	
長谷川 孝博	静岡大学情報基盤センター	副センター長	
後藤田 中	香川大学総合情報センター	准教授	
米谷 雄介	香川大学総合情報センター	助教	
渡邊 貴之	静岡県立大学テレビ	局長	
滝島 繁則	さくらインターネット	担当部長	
菅 真亜佐	電通 東日本	クリエイティブ●ディレクター	
矢入 悠嗣	アラモードメディア	ディレクター	
山崎 國弘	アバンセシステム	執行役員	
永田 正樹	アバンセシステム	クラウド事業部長	
森 政勝	静岡新聞社●静岡放送	総合メディア局長	
菅原 あや	静岡大学テレビジョン	ディレクター	
名倉 栄梨	静岡大学テレビジョン	ディレクター	事務局長
松倉 純子	静岡大学テレビジョン	ディレクター	
神山 夏実	静岡大学テレビジョン	ジャーナリスト	副事務局長
塚平 高揚	静岡大学テレビジョン	エンジニア	

— 以上 —